

NEWS LETTER

エジプト・アラブ共和国
特別活動を中心とした
日本式教育モデル発展・普及プロジェクト



ニュースレター第2号

ニュースレター第2号では、8月に初めて行われた、公立学校への全国研修をご紹介します。

第1号では、エジプト日本学校の先生を対象にした研修をご紹介しましたが、今回は全国の公立学校対象の研修についてです。今回の研修で講師を務めたエジプト人の指導員の方へのインタビューや、その研修を参観した専門家の感想などをお届けします。

満を持して始まった公立学校を対象とした今回の研修ですが、期待と不安が入り混じり始まった様子が、そこから感じていただけたと思います。

第2号の 主な記事

公立学校への
全国研修

エジプト日本学校
新しい学期への準備

公立学校への 全国研修がはじまりました

Q.今までの研修と何がちがうの？

A. 研修の対象校が公立学校の1万7千校に

※日本の小学校数約1万9千校に近い規模

Q.どこで行われているの？

A.全国27箇所で実施

Q.対象人数は？

A.全国約3万人の公立学校の校長、
副校長、教員、指導主事が対象



Q.誰が研修を行ったの？

A.特活指導員約90人



Q.研修はどんな内容？

A.学級会、学級指導、日直の理念や
指導法

Q.期間は？

A.2日間



公立学校への普及



学級会



学級指導

このプロジェクトの前身「学びの質向上のための環境整備プロジェクト」では、日本式教育のモデルを、12の公立校と新たに開校した48校のエジプト日本学校への導入する活動を支援しました。また、エジプト政府が、特活を全国の公立校で週45分実施するカリキュラムを導入したことを受け、同モデル内の中心となる活動（①学級会、②学級指導、③日直活動。これらの活動をまとめて「ミニ特活」と呼称）を、全国の公立学校へ普及するための活動も支援しま

した。ただし、後者の活動については、教員や関係者への研修が充分でないこと等が影響し、全国の公立学校での実施は、限定的な状況となっていました。

このような状況をうけ、2022年7月より教育省や地方教育委員会の関係者、全国の公立学校の校長や副校長、教員を対象とした研修が開始されました。全国の小学校は約1万7千校あり、大規模な研修となっています。本研修では、ミニ特活を実施することの意義や影響、活動の基本的な説明を中心としています。

講師を務めた 特活の指導員ハナンさんに、インタビューしました

初めての全国研修の実施はいかがでしたか？

研修および研修資料であるプレゼンテーション、特別活動の教員ガイド、ワークシートやビデオなどが十分に準備されてスタートしたので、効果的に研修を実施できました。

どのような点を工夫しましたか？

各活動の説明の後に必ず質問時間を設けて研修生の理解を明確にしました。例えば、「この活動を公立校で実施するために必要なものは何ですか？」という質問には、「新しく何かを購入するなど財政的な負担は必要ないが、この活動の重要性、生徒たちがスキルを身に付け行動につなげていける、と教員が確信することが必要である」と答えました。

研修を受けた方の印象はいかがでしたか？

ほとんどの研修生がこの活動に興味を持ち、またその重要性を理解していることを知りました。また、研修内で活動の模擬演習する際、研修生がよく協力し、効果的に行われたことがわかりました。

今後の研修について、どのような工夫が必要ですか？

大半の研修生から研修内容を増やしてほしい、研修時間が足りないという意見が出ていたので、研修生が活動手順を理解するためや、もっと演習するための十分な時間を設定できたらと思います。また、今回の研修生のように関心をもってもらう方を増やすための研修を続けていくことも出来たらと思います。

ハナンさん、ありがとうございました！



学級会の役割の模擬授業
王冠は司会や書記などの役割を表しています

ハナンさんが講師を務めた、7月30日、31日の指導主事や校長・副校長向けの研修では、学級会などの活動の紹介に加えて、実際に研修生に学級会での役割を与えて演習するなど、初めてミニ特活を知る研修生にも分かりやすく工夫されていました。

アンケートや専門家による観察結果から、参加者の理解度やモチベーションが、現時点では満足できる程度であることが読み取れ、今後の発展が期待されています。



教材に使用した特活の教員ガイド

中島専門家からのコメント 2022.8.31

特活全国研修考察

～実現までの5年間でたどり着いた一つの疑問

今から遡ること5年前の2017年、パイロット活動を通じてプロジェクトが開始され、その翌年、エジプト小学校の新カリキュラムとして、ミニ特活実施のため週45分の授業が割り当てられました。しかしながら、エジプト版特活カリキュラムの導入後、全国の教員に実施された研修は、ミニ特活を十分に理解した講師の不足、予算や時間的な制約、コロナ禍の影響等により、満足なものとは言えませんでした。（先生たちは、2018/19学年度に15分程度の研修ビデオを視聴したのみ。）また、各小学校でのミニ特活の実践状況の把握もできないままの状況でした。

今年になって、この状況に突然の変化が訪れます。2022年7月、教育省から、全国3万人の教育関係者に、特活研修を行うという計画が発表されました。第1ラウンドの研修は、本発表からわずか2週間後、全国27会場で約1万人を対象とするというものでした。これまでプロジェクトが育成してきた80人のエジプト版特活の指導員に加え、昨年立ち上げたばかりの特活資格を取得した9人のエジプト版特活の指導員が、各会場に数名ずつ割り当てられ、2日間の研修を繰り返し、各数百名の研修生を担当するという、これまで全く経験のないオペレーションへの対応が求められました。

多くの混乱が予想された初回研修ですが、各地を視察すると、想定以上にうまく回っている様子が見られました。練り上げられた各セッションの発表資料、実践を重視した講義内容、各会場の研修進捗を調整する指導主事、そして何より、初対面かつ大人数の参加者の前で堂々と発表する特活の指導員の存在が、非常に頼もしく映りました。これまでの研修内容に対しては、参加者から良好な評価が寄せられており、現在は第2ラウンドとして2万人を対象とする研修が実施されています。

研修を視察している際「もしこの研修がより早い時期に実現していたら、一体どのような状況下で実施されていたでしょうか？」という素朴な疑問が浮かびました。プロジェクト開始時から、今回の全国研修実施に至るまで、我々プロジェクトは地道に特活の指導員育成を続けながら、教育省に対して数えきれないほどの研修実現の申し入れを行ってきました。もし仮に、昨年の段階で全国研修が実現していれば、資格を持った特活の指導員は1人も存在せず、一般の指導員は60名にとどまります。さらにもう1年さかのぼると、特活の指導員の人数は40名近くにまで減ります。特活の指導員の人数のみならず、研修経験も少ない当時の彼らであれば、準備された内容を利用し、講師としてどこまで自信をもって取り組んでいたか、甚だ心もとないものがあります。

過去5年間、一刻も早い全国研修の実現こそが、多くの問題解決に繋がると信じて疑わなかった私達プロジェクトチームですが、振り返ると2017年から2022年までの5年間は、私達にとって、将来の全国研修を確実に実施するための、大切な準備期間にもなっていたことが、今更ながらに感じられます。あらためて研修実現までの5年を振り返ると、この日が来るのを私たちは待っていたのか、あるいは私たちが周りを待たせていたのか、その何れも正しいように感じます。そしてこの問いには、思い通りに進まない計画の中に身を置く私たちが、それでも普段の時間をどのように過ごすべきかについて、大切な示唆を与えてくれるように感じます。

待ちに待った中、始まった一般校への全国研修の様子、いかがでしたか？

特活の指導員ハナンさんへのインタビュー、中島専門家からのコメント両方を読んだと、実施できない期間があったからこそ、特活の指導員が力をつけ、エジプトでの特活の普及につながる大きな第一歩を踏み出せたことが感じられます。

今後は、教員や関係者間でより実践的な経験や事例の共有をするため、授業研究会やセミナーの開催、事例共有プラットフォームの開発と運用を検討しています。



國學院大學の杉田教授 の講演が行われました。

特活の第一人者である杉田教授は、本プロジェクトの前身「学びの質向上のための環境整備プロジェクト」から幾度となくエジプト現地でエジプト版特活の普及に向けてご尽力いただいています。

今回も1週間という短い滞在期間の中で、多くの場所で特活の神髄をお話しいただきました。印象的だった訪問先での出来事を二つご紹介します。



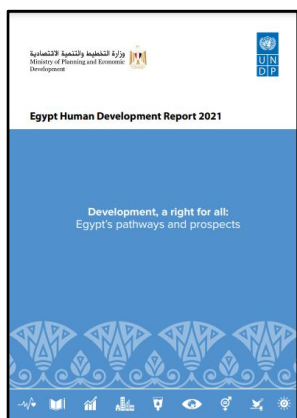
一つ目は、現在実施している、公立学校への全国研修を視察された中で、「学びの質向上のための環境整備プロジェクト」から幾度となく関わってきた特活の指導員たちが講義する様子をご覧になった際のことです。視察後「5年間かけて仲間と共に伝えてきたことが、育ててきた90名の特活指導員によって忠実に伝えられていることに感激しています。そして、何より嬉しいのは、参加させられているはずの教員達が、意外にも、講義や模擬学級会や学級指導の演習に目を輝かせ、積極的に参加していることです。」と感想を述べてくださいました。研修後の指導員との意見交換会では、現在20名ほどの規模で行われることが多い学級会をはじめとした特活が、公立学校では80名ほどの子供が詰め込まれている困難な学習環境の中で行われることや、文字を読み書きできない子供や保護者も多いなどの根本的な問題がある中で、どのような特活ならできるかについて腐心していることが感じられたとおっしゃっていました。

二つ目は、帰国日前日にはカイロの北東に3時間半ほどの距離にある港町ポートサイドを訪れ、杉田教授ご自身から教育省高官に向けた特活の講演が行われました。講演後は、参加者が特活や杉田教授の講演についてSNSでコメントされたりと、杉田教授のお話しは大変印象深かったようです。

今回の杉田教授のエジプト訪問は、エジプトで特活導入に関わる人の成長が感じられたり、今までアプローチできていなかった方に向けて特活の講演を行ったりと、今後のエジプト全土への特活普及に向けて大変有意義な機会となりました。

News

UNDP（国際連合開発計画）が毎年発行している、人間開発報告書 2021年エジプト版にエジプト日本学校が取り上げられました！！



人間開発報告書2021年エジプト版は、国連の持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた取り組みに大きな影響を与える一連の主要な人間開発問題についての詳細な分析を提供することを目的としています。本報告書では、2011年から2020年の期間にエジプトで採択・実施された政策と、それらがエジプト人に与える影響について分析的なレビューが提供されています。

エジプト日本学校については、「生徒に道徳的価値や積極的な行動を教え、生徒の母国への帰属意識を高め、協力やチームワーク、問題解決能力の文化を育て、良い学習環境を作り出すことを目的としています。エジプト日本学校は、教育のすべての段階において、日本の特活教育システムと連動したエジプトのカリキュラムを適用しています。特活は、対話、議論、問題解決、革新、尊敬、規律を通じて、子どもたちの能力を伸ばし、行動を改善します。」と掲載されています。

出典：https://www.arabdevelopmentportal.com/sites/default/files/publication/english_full20report_sep2012ehdr.pdf

エジプト日本学校5年目に向けた取り組み

10月1日より新学期を迎えるエジプト日本学校は、新たに3校が加わり51校で、新年度がスタートします。

5年目を迎えるエジプト日本学校の新学期へ向けた取り組みを、ご紹介します。

特活研修

エジプト国教育・技術教育省事業管理部 (PMU) が実施するエジプト日本学校の教員研修では、特活担当以外の、他の教科の教員に向け、すべての学校職員が生徒の見本になるように支援しています。今回の夏休み研修は主に、教員向け校長、副校長先生、学校職員約1000名を対象に行いました。

教員向けの研修では、新学期から5年生へ進級する生徒から導入する、委員会活動の紹介が行われました。また、円滑に学級会を進めるためどのように板書を使用するかなど具体的な指導も行われました。

校長先生、副校長先生向けの研修では、学校行事の年間計画や教室での特活の指導などに関わる研修が行われました。他にも学校と保護者とのおたより帳や連絡網の活用や、学校運営者が教員をどのようにモニタリングし評価するかなど議論しました。

さらに、9月からは新しい先生に向けての研修もスタートしています。



幼稚園向け研修



今回の研修では、これまで研修に参加する機会がなかった経験豊富な先生方を対象に、日本式の幼児教育について理解と知識を深める研修と、例年通り校長先生、副校長先生向けに特活と幼稚園の教員指導書の新しい内容と改訂部分についての研修が行われました。

「幼稚園の遊びを通した学び」の教員ガイドに新しく導入された①日本の幼児教育の5領域（健康、環境、人間関係、言語、表現）を総合的に育成すること、②学校ごとの特色を考慮した幼稚園の目標の設定方法と目標の決め方、5領域との関連、③クラス目標の設定、またどのように幼稚園児の年齢に合わせ実施するかなどの項目について紹介しました。

研修を通して、幼稚園での授業研究会の実施について良くない印象を持っていた先生方が、正しい実施方法を知ること、自分の学校でも実践し、技術力の向上や情報、知識の交換をしたいという意欲が持たれた点が大変有意義でした。

ニュースレター第2号いかがでしたか？今回は、公立学校への全国研修の様子を中心にお届けしました。

エジプトの学校は、10月に入り、新学期を迎えました。今後も5年目を迎えるエジプト日本学校の様子や、公立学校でのミニ特活の実施の様子などたくさんのお知らせする予定です。

問い合わせ先

JICA技術協力プロジェクトチーム
holistic_edu@padeco.co.jp